

シゲルくん通信 NEO

建物超寿命化支援企業の
株式会社シゲル・コーポレイションが
毎月発行する瓦版です

- ★当社が協賛するBSNラジオ番組『石塚かおりのBrand new day』内にて
内容リフレッシュして、引き続き当社ラジオCMオンエア中! (毎週火曜日7:15~8:54内)
- ★BSN TV朝の情報・報道番組『THE TIME』内にて
当社お天気フィラーTVCM放映中! (毎週月曜日6時5分頃)
- ★BSNTV内にて『ゴジラー1.0』公開タイアップ・スポットCMを随時オンエア中

毎月掲載しておりました
ことだま千絵子さんの
「ことだま」作品は、当社
ホームページにお引越し
しました。
10月号より、新着情報で
作品を掲載中♪

当社セミナー
申し込み
まだ受け付けて
おります!

お申し込みは
こちらから



今月のトピックス

- I. 第36回 シゲル・コーポレイション プレジデントCUP開催
- II. 10月21日 当社半期全社会議実施
- III. シーカ・ジャパン株式会社様 営業研修

II. 10月21日 当社半期全社会議実施

10月21日アートホテル新潟駅前にて、半期全社会議を開催致しました。

増村社長より 2023年度上半期事業報告 及び2023年度下半期の事業展望を発表、
また各部門長より各部門の上半期報告・下半期計画を発表致しました。
また、半期を迎えて新しい役職者への辞令交付、
新入社員の紹介を行いました。



10月14日(土)紫雲ゴルフ倶楽部にて、当社主催のゴルフコンペを開催致しました。
参加頂きました29名の皆さんと秋の爽やかな晴れ間のなか、気持ちよくプレーを楽しみ、交流を深め合いました。

I .第36回 シゲル・コーポレイション プレジデントCUP開催



会議開始前に
全社員で社訓の唱和

増村社長より2023年度
上半期報告・下半期展望の説明

III. シーカ・ジャパン株式会社様 営業研修

10月7日エコストジアム研修室にて当社営業部、シーカ・ジャパン株式会社様より、外壁剥落防止に非常に有効な外壁複合改修工法について 営業研修を受けました。



▲ロールプレイング研修中

JAMS
(建築保全標準・同解説
/日本建築学会 発刊)



JAMS(建築保全標準・同解説)／日本建築学会が
推奨している在来工法の部分補修では初期性能の
回復にとどまるに対し、「外壁複合改修工法」
は剥落安全性の向上が可能であることが示されて
います。

また、外壁複合改修工法には透明樹脂を用いた工法
が紹介され、建設技術審査証明を取得した工法につ
いても紹介されました。

エバーガードSG工法は、建設技術審査証明認証を
受けている工法です(エバーガードSG-1, SG3が対象)

タイル外壁用透明樹脂系外壁複合改修工法 エバーガードSG工法

タイル外壁に



使用する樹脂が、
全てクリアな樹脂
タイルの風合いを
残すことができます

不透明樹脂系外壁複合改修工法 ノンネットガードU工法

モルタル外壁、タイル外壁に



白いウレタン樹脂
を塗ることで厚み
のある膜を作り、
最終的に着色の
塗料(トップコート)
を塗ります。

改修後は意匠性を
変えてリフレッシュ

国土交通省 建築改修工事監理指針(令和4年版)
(一般財団法人 建築保全センター 発刊)



国土交通省 建築改修工事監理指針(令和4年版)に、
外壁複合改修工法の記載が加わりました。
また、従来工法に加え 透明樹脂系工法 と、
不透明樹脂系工法 の記載も加わりました。

荻昌弘さんを愛してやまない俺ちゃん的シネマコラム

連載第66回 今月のテーマ 『 印象に残るデカ(刑事・警官) part2 』



★今月の社長イラスト
『 黄昏の高層ビル群 』

自称、シゲル・コーポレイション内で一番の映画好き、増村文武です。

当社がTVスポットCMでコラボをさせていただくということで、シゲルくん通信NEOのオモテ面でもご紹介をしました山崎貴監督による『ゴジラー1.0』 山崎監督といえば、百田尚樹の小説を映画化した『永遠の0』が有名ですが、今回 山崎監督が演出を行うゴジラ最新作は、戦後間もない打ちひしがれた日本を舞台に描かれており、予告編を見る限りでも、ゴジラ史上最もシリアルで怖く、情け容赦ない非情な展開となりそうです。 こころして劇場鑑賞してまいります。

さて、連載第66回目のテーマは『 印象に残るデカ(刑事・警官) part2 』と題しまして、当コラム第35回のpart1編に続いて印象深い選りすぐりの3本を紹介いたします。



★毎月掲載している挿絵はこちらからもどうぞ。

No.193『ザ・レイド (2011年 インドネシア映画)』

東南アジアの伝統的な武術であるシラットの達人である武闘家イコ・ウワイ主演による忘れられない珠玉の1本。 麻薬王が支配する悪の巣窟と化したビルに強制捜査に入った、SWAT部隊の壮絶な死闘を描くアクション映画。 イコ・ウワイは新米のSWAT隊員ラマを演じています。 アクションといっても派手な爆薬や銃のドンパチ、カーアクションが主役のハリウッド映画の趣ではなく、あくまで主役は身体 vs 身体。 度肝を抜くような格闘系アクションの連続で、観ているこっちも痛さが伝染するような超絶な肉弾戦、何回観直しても色褪せずに新鮮です。 続編の『ザ・レイド GOKUDO』も、当コラム連載第3回目で紹介済ですが、こちらも第一作目に負けることなくエグいアクションの連続。 イコ・ウワイは現在40歳、ハリウッド映画にも進出しましたが、まだ若いので今後の活躍にも期待大です。 できれば全盛期の頃のジェット・リーと、魂をぶつけ合うようなコラボが観たかったなあ。

No.194『孤狼の血 LEVEL2 (2021年 日本映画)』

平成初期の広島を舞台にして、裏組織同士の抗争や裏組織に癒着した警察の腐敗を描いた和製クライム・スリラー。 2018年公開の『孤狼の血』の続編です。 本作の主演は、前作では役所広司演じるマル暴刑事大上の助手の新米刑事日岡を演じた松坂桃李。 時は経ち、第一作目の心の痛手からか、ういういしく真面目な趣だった第一作目の日岡の面影はまったくなくなり、大上が乗り移ったかのように裏組織との関係を保ちながら陰で取り仕切る凄み極まるデカに進化。 今回のストーリーは、しばらく均衡が保たれていた裏社会に刑期を終えて出所してきた鈴木亮平演じる大物上林が現れることで、再び均衡が崩れ、警察をも巻き込んだ血みどろの抗争へと発展していくさまを前作以上にエグく描きます。 日岡を演じる松坂桃李以上に強烈な印象を残したのは、上林を演じる鈴木亮平。 この方もカメレオン俳優のようにどんな役回りもこなせちゃうのですね~『西郷どん』の鈴木亮平はどこに行った!? 泣く子もだまる強烈な悪の化身を見事に演じきっております、怖すぎ~。

No.195『クリムゾン・リバー (2000年 フランス映画)』

フランスを代表する俳優陣、ジャン・レノと ヴァンサン・カッセルが共演した猟奇サスペンス。 アルプスの断崖で、目がくりぬかれ胎児のような状態で縛られた変死体が発見されます。 ジャン・レノ演じるパリのベテラン刑事ニーマンスは捜査を開始しますが、麓にあるゲルノン大学の少し異様で閉鎖的な雰囲気に、この事件との関連性を疑うのでした。 同じ頃、別の事件を捜査していたヴァンサン・カッセル演じる地元の若手刑事マックスも、調査を進める中で次第に大学への疑惑を抱きはじめ、やがて2人の刑事はめぐり合うこととなるのですが…。 雪山、修道院、歴史ある大学…アクションを散りばめつつ、厳かなゴシックの雰囲気も漂わせる本作は、当コラム連載第31回目で紹介させていただいた『薔薇の名前』好きな私には、やっぱりこちらも好きな1本なのです。 若きヴァンサン・カッセルの”不良デカぶり”も良い~ ヴァンサン・カッセルの暴れっぷりをもっと楽しみたいなら、カリスマ的な強盗団のリーダーを演じた『ドーベルマン』もおすすめ。

もし御興味が沸いてきましたら、皆様もぜひ一度御鑑賞を (^_-)-☆

当社ホームページ
QRコード

